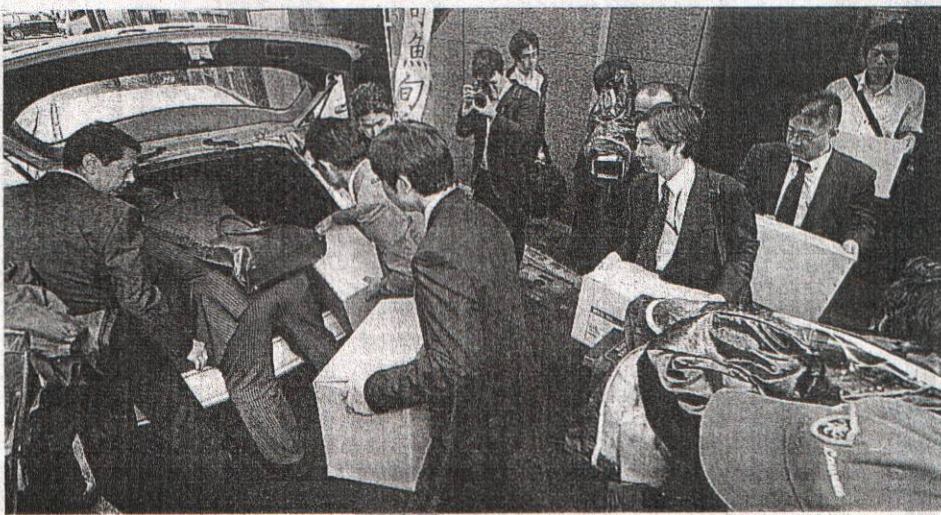




家宅捜索を終え、A I J投資顧問などが入るビルから出てくる捜査員ら＝19日午後1時30分、東京都中央区、白井伸洋撮影

A I J詐欺事件

基金担当者、怒りと自責

年金資金をだまし取った詐欺の疑いで、A I J投資顧問の社長、浅川和彦容疑者(60)ら4人が逮捕された。失われた資産は1千億円超。年金基金の担当者、やり場のない怒りと自責の念にかられた。▼1面参照

「年金食い物許せない」 「真の被害者は加入者」

「問題は、どれだけ資産を回収できるか、今後をどうするかなんです」。資産の大半をA I Jに委託していた関東地方の厚生年金基金幹部は頭を抱えた。加入者と年金受給者は計約5千人。2003～08年に委託した計30億円は、運用益を入れると52億円に上っているはずだった。だが、すべてを失うことになりそうだ。

2007～11年、年に1回、浅川社長らを囲んで勉強会を開いてきた。「1部上場の会社で運用している」という浅川社長の堂々とした語り口に、この幹部も聴き入った。

「年金基金がA I Jに委託した資産は、もとをたどれば、加入者である企業が社員の給料から天引きなどの形で預かった金だ。『コソコソものづくりに励んできた社員の年金を食いものにした』ことは許せない。逮捕は当然だ」。東京都立川市の精密機器メーカー「メトロール」の松橋卓司社長(54)は憤る。

同社など同業の135社が加入する年金基金は約28億円の被害を受けた。だが、年金基金もまた「被害者」ではないか、と感じる。運用方法をきちんと吟味していたのか。松橋さんは解散を訴える。「存続すれば、借金を抱えながら、投資という名のばくちを続けることになる」

浅川社長「水増しに悪意ない」 国会で証言

浅川、西村両社長は3、4月、うそをつけば偽証罪に問われる証人喚問2回を含め、衆参両院で計4回、事件について証言している。浅川社長は、運用成績を良く見せかけた報告書などを作って顧客に示していたことを自ら説明。2009年春以降、新規顧客からの

「だます意図を持って新規募集したわけではない」と気色ばんで反論を繰り返す、虚偽との指摘には「虚偽というより水増し。水増しに悪意はない」と独自の解釈も披露した。

一方、西村社長は「A I Jの完全な支配下にあった。虚偽と知らずに販売した。国会では、巨額の年金資

産を消失させる一方、約8千万円の年収を得ていたことも明らかに。またA I Jは、基金担当者らへの「接待交際費」として年間1千万円以上を計上していた。井済の意思を聞かれた浅川社長は、「報酬を多く受け取ったとかだまし取ったということはない」と主張。「私の金を出す」ということは、私が詐欺をしたことを認める行為だ」と、拒否する姿勢を示した。